

事務事業名		市道2級150号線交通安全施設等整備事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり					担当組織	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課
	政策	1 安心して安全に暮らせるまちづくり					担当係	道路建設係	担当課長名	青木 茂良	
	施策	2 交通安全・防犯対策の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 道路・交通安全施設の整備					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	11074	一般	8	2	3	市道2級150号線交通安全施設等整備事業					
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	22年度～27年度		根拠法令 条例等	道路構造令					
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		一部委託			
						事業分類		施設等整備事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		2-8			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
奈良洲土地区画整理事業区域以北の市道370mの歩道整備を行うことにより、歩行者及び自転車等の安全、及び通過車両の円滑な通行を確保する。 全体事業 工事延長L=370m 道路幅員W=8.5～10.0m (歩道2.0～3.0m(片側))			仮設道路詳細設計業務委託 工事 L=165m							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			工事延長	m	0	165	118			
			用地買収	件	2	0	1			
			物件補償	件	3	0	2			
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
1.歩行者、自転車利用者 2.通過車両			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			歩行者、自転車数	人						
			通過交通量	台						
目的										
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
1.歩行者、自転車利用者の安全確保を図る。 2.通過車両の円滑な通行を図る。			整備率(事業費ベース)	%	28.3	70.4	100.0			
④結果(どのような結果に結びつきますか?)										
交通事故が起きにくい道路環境になる。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			幹線市道の歩道整備率	%	26.6	26.8	26.9			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円	21,300	81,700	54,500					
	その他	千円	6	5						
	一般財源	千円	4,263	5,756	7,109					
	事業費計(A)	千円	25,569	87,461	61,609	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			事務費	2,501	事務費	2,055	事務費	50		
			手数料	49	業務委託料	454	業務委託料	546		
業務委託料			911	工事請負費	84,904	工事請負費	49,800			
機械等借上げ料			336	補償費	48	土地購入費	1,139			
土地購入費			2,549			補償費	10,074			
補償金	19,223									
人件費	人	2	2	2						
のべ業務時間	時間	500	600	600						
人件費計(B)	千円	1,946	2,365	2,365	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	27,515	89,826	63,974	0	0				

事務事業名	市道2級150号線交通安全施設等整備事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路建設係
-------	----------------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	本路線の沿線には田沼高校をはじめ公園等の公共施設が集中しており、その生徒や施設利用者が本路線を多数利用しているが、本路線の現況道路幅員が5~6mと狭小のうえ歩道が未整備であるため、歩行者・自転車等が危険な状況にある。地元町会から歩道整備・道路改良の要望を受けている。 平成20年度に地元に対して事業説明会を実施した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	清掃センター跡地に田之入公園やさらに北側には栃本公園が整備され、本路線の交通量がより一層増加し歩行者及び自転車等がより一層危険な状態となる。 田沼高校が24年度末で廃校となった。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市政懇談会での質問や、地元町会より歩道の整備・道路改良の要望が出ている。 市の提示した計画案に対して一部の関係者から同意が得られなかったため、一部道路幅を修正して同意を得る。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 道路管理者による歩道整備事業であり、道路利用者(歩行者、自転車、自動車等)の安全確保、及び通行車両の円滑な走行が計られることは、上位目的である市内の交通事故の発生を抑制し、事故による死傷者数を減らすことにつながるものである。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 本路線は市道に認定されており、北中学校や田沼高校等の通学路でもあることから、道路管理者である市が整備することは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 本路線を通行する歩行者、自転車、自動車等を対象とし、それらの安全確保及び円滑な通行を計ることは妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	類似事務事業名 理由・改善案
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 計画路線の線形決定に際し、用地買収面積および補償復権が極力少なくなるよう考慮し、事業費削減に努めている。既に、工事資材等に再生材を利用するなどコスト削減を図っているため、さらなる事業コストの削減の余地はないと考える。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 道路は、不特定多数の人が利用するものであり、道路利用者の安全を確保するという事業目的からすると、受益者は特定されない市民であるため、受益者負担を別途求める必要はないと考える。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	計画区間の歩道と車道が整備されたとき事業終了となる。用地の取得が出来ないときは休止または廃止となる。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					